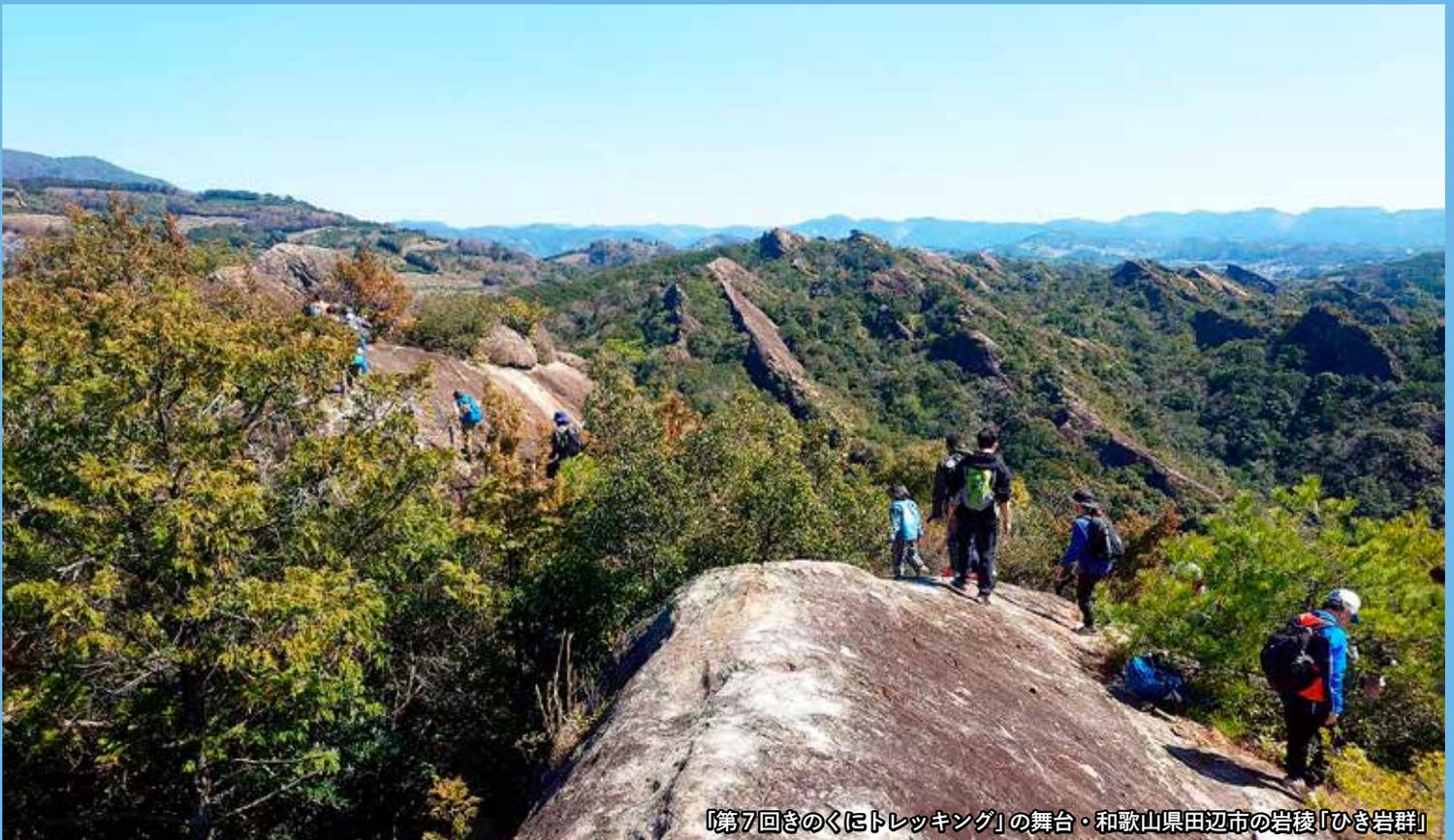


# 登山 月報

JMSCA 登山月報 第678号 令和7年9月15日発行



【第7回きのくにトレッキング】の舞台・和歌山県田辺市の岩稜「ひき岩群」

8月11日 みんなで山を考えよう!  
 祝「山の日」  
 全国「山の日」協議会  
 山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する

# No.678

第69回全国高等学校登山大会	2
ご挨拶 副会長兼SC部長 畑中 渉	4
ご挨拶 副会長兼登山部長 廣川健太郎	5
SKIMO	6
Enjoy Climbing	8
福島県山岳・SC連盟自然保護委員会のSDGsな活動	9
第9回「山の日」全国大会2025FUKUI	10
第22回山岳遭難事故調査報告書 その1	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば	12

# 第69回全国高等学校登山大会

令和7年度全国高等学校総合体育大会登山大会第69回全国高等学校登山大会が「開け未来の扉中国総体2025」のスローガンのもと、広島県安芸太田町で8月5日(火)～9日(土)の日程で行われた。



## ■8月4日(月) 受付・監督・リーダー会議他

会議会場の「安芸太田町戸河内ふれあいセンター」と選手・監督の宿泊する広島市「グランドプリンスホテル広島」の2会場をオンラインで結んで監督リーダー会議を行った。

## ■8月5日(火) 開会式・審査・幕営

加計体育館に選手・監督455名が集まり、開会式が行われた。大会名誉会長でもある町田幸男JMSCA会長のあいさつがあり、選手として高校総体に参加してから今までの豊富な山の経験から登山中はPDCAサイクルを実践すること、「お蔭様」の気持ちを忘れないこと、そして卒業後も登山を続けてほしいなど選手に熱いエールを送られた。

会場は3日前に40.0℃の最高気温を更新したばかりで、当日も暑さが予想されたが実行委員会が手配した強力なスポットクーラーのおかげで体調を崩す選手もなく、開会式に引き続き自然観察、救急、気象などの課題テスト、天気図作成などの審査が予定通り行われた。

審査後にバスで移動した深入山グリーンシャワー多目

の広場の幕営地は標高800mにあり、日が沈むと長袖が欲しいほどの気温になり、選手・監督は明日からの行動に向けて快適な一夜を過ごすことができたようである。

## ■8月6日(水) 恐羅漢山コース

まだ暗い3時20分に起床し、ヘッドランの明かりで朝食、テント撤収、パッキングを済ませ集合。設営隊から行動隊への引継式を行った後にバスに乗り恐羅漢レストハウスに移動。6時すぎに男女別に登山行動を開始した。

隊行動中の8時15分には行動を止め1分間の黙とうを捧げた。「広島平和記念日」に広島にいることの意味を考え、犠牲者の冥福を祈り平和の大切さを考える機会になった。

広島県最高峰の恐羅漢山そして旧羅漢山の尾根を縦走し獅子ヶ谷登山口に下山するコースは、日なたは暑いが稜線のブナの木陰は涼しく、予定の12時すぎにはすべてのチームがバスの待つ二軒小屋に下山できた。

下山後、女子隊は暑熱対策として仮設エアコンを設置した戸河内ふれあいセンターに移動してクーリングを行い、男子隊はいこいの村ひろしまで入浴を行った。

大会本部には競技・運営役員の他に自衛隊協力隊、気象予報士チームが詰めて安全な大会運営のために分担して業務を行っているが、この日気象予報士から「前線



写真提供：P&P浜松



写真提供：P&P浜松



写真提供：P&P浜松



戸河内ふれあいセンター

の南下により夕方から雨が降り出し雨脚が強くなる。突風、落雷発生の可能性も高い。」との緊急情報が伝えられたことから、臨時の中央総務会議を開き、当日の幕営は中止、予め避難場所として確保していた戸河内ふれあいセンターに避難し宿泊、翌日の登山行動も状況が確認できるまでは待機することを決定した。

選手監督はバスで避難所に移動し、夕食の調理を建物の軒下等で行った後、選手は中央で仕切られたアリーナに男女別に、監督はホールで就寝することになった。避難所に到着した頃は青空も見えていたため、予定変更について設営役員に苦情を言う監督もいたが、夕方から降り出した雨は予報通り突風を伴った豪雨になった。

#### ■8月7日(木) 十方山コース

朝には天候は回復した。明るくなるのを待って役員で登山コースや幕営地の状況確認を行った。幕営地に設置した日よけ用のパイプテントは鉄杭にロープで固定してあったにもかかわらず鉄パイプが折れ曲がり断裂、倒壊してひと塊になり、まるで何かのオブジェに見えるほどで前夜の突風の破壊力を思い知らされた。

もしもここで選手・監督が幕営していたら被害は免れなかったと思われる。避難の判断が正しかったこと、天候に左右される登山大会に気象予報士の協力があることの有難さを再認識させられた。

登山行動については、二軒小屋から獅子ヶ谷登山口の林道往復のみで行い、下山後は水の引いた(地元の補助員たちが水を掻き出し、砂を入れた成果でもある。)幕営地で設営を行い、女子が入浴、男子がクーリングを行った。



突風で倒壊したパイプテント

#### ■8月8日(金) 深入山・三段峡コース

登山行動最終日は幕営地からチーム行動で出発し、深入山に東登山口から登り南登山口に下山。さらにバスで



三段峡 黒淵

三段峡まで移動して、監督と一緒にパーティ行動で黒淵まで渓谷を往復、黒淵では渡し舟に乗船するというアクティビティも用意されたコースであった。この日は前日の行動が短く休養できたこともあり、選手たちは元気で笑顔も見られ、予定よりも早く行動が終了し、解団式を行って登山行動を終了した。

#### ■8月9日(土) 閉会式

戸河内ふれあいセンターで閉会式では、審査員長から講評と成績発表が行われた後に表彰式が行われた。連日の暑さと不安定な天候の中、大会期間中、大きな事故や怪我もなく、無事大会が終了できたのも、広島県山岳・スポーツクライミング連盟、JMCSA登山医科学委員会、日本気象予報士会、自衛隊協力隊、高校山岳部OB、安芸大田町、広島県高体連登山専門部、その他多くの方々のご尽力の賜物であり、改めてお礼を申し上げたい。



男子 優勝校



女子 優勝校

(公財) 全国高等学校体育連盟登山専門部  
JMCSA 理事 下村真一

# ご挨拶

副会長 兼 SC部長 畑中 渉

関係各位の皆さまには、平素より当協会の活動に深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

6月22日、JMSCA総会においてSC部長を拝命しました。

スピード感のある業務執行を行うという考えのもと、副会長を兼任することとなりました。

厳格な財務規律を強いる中で、求められるのは「検討ではなく、決断と実行」と理解しております。

1期目の思いとしては、JMSCAに関わる全ての方々に対し、登山・スポーツクライミング分け隔てなく、未来へ向けての方向性を示したいとの思いで担務に向き合いました。

## ■2期目の今期

スポーツクライミングは、東京2020オリンピック採用以降、国民的な関心も高まり、競技人口は年々増加しております。特にユース世代の成長は著しく、未来の代表選手候補たちが各地で活躍する姿に、大きな希望を感じております。こうした若い才能を育成し、世界に羽ばたく選手へと導いていくことは、私たちの重要な使命であり、今後さらに強化策を講じてまいります。

また、シニアのフル代表においても、世界のトップレベルと渡り合うための体制整備、トレーニング環境の強化、そして指導者層の育成が不可欠です。競技力向上のみならず、心身のバランス、競技後のキャリア形成も含めた「選手ファースト」の視点を持ち、持続可能な強化方針の策定に努めてまいります。

さらに、国民スポーツ大会(旧：国体)におけるスポーツクライミング競技の位置づけと後催県への支援も、当協会として極めて重要な役割です。各都道府県における普及活動や競技運営体制の構築を円滑に行えるよう、後催県との連携を密にし、円滑な大会開催に向けた指導・支援体制の強化を推進してまいります。

今後とも、スポーツクライミングを通じて、協賛各社さまとの普及活動やグローバルな情報発信によるシナジー効果を生み、青少年の健全な育成、地域社会の活性化、そして国際舞台での日本代表の活躍に貢献できるよう、誠心誠意取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。結びに、私自身のJMSCA(旧日山協)との係りをお話します。

1998年神奈川国体に富山県代表として参加したのが始まりです。

2000年とやま国体を控えた中、山岳競技強化指定であった「富山県警 山岳警備隊」のチームに唯一民間人として招聘されました。実際、クライミングよりも荷物を担いで走っていた記憶しかありません。合宿遠征でのトピックは「警察車両で移動の為、高速道路で追い抜く車無し」「ホテル前に車を停車し荷物を降ろしていると人だかりができ注目される」「クライミング中もランパン着用」、練習中に骨折した際も「骨折で弱気になっている登山者がいると折れている部位を叩いて励ます」と聞いていたのでやせ我慢した等、枚挙に暇がありません。脱線しましたが、何より、本当に伝えたいことは「みんなこの山岳競技が大好きだった」ということです。この一言に共感してくれる方は多いのではないのでしょうか？

\*

その後、この経験を生かしたライフワークとして「トランスジャパンアルプスレース」(TJAR) 実行委員として活動しております。

※TJARは、2002年から隔年で開催され、12回を数えます。

標高ゼロの日本海・富山湾から、3000m級の山々が連なる北中央南アルプスを縦断し、太平洋・駿河湾へ至る総距離約415km、累積標高差27000m以上を自分の足のみで8日間以内に踏破する2年に一度の壮大かつ過酷な山岳アドベンチャーレースです。最も重視しているのは選手自身の安全管理であり「誰にも迷惑をかけないこと」が命題。

コース上、5県20市町村にまたがっているため、行政・環境省・森林管理署・地元警察署・山岳警備隊・山小屋37か所へ後援申請や挨拶回りを行っております。

この活動が認められ、2024年度 JMSCA 山岳グランプリ「特別賞」を受賞いたしました。

## ●受賞理由(抜粋)

自然環境や生活環境の様々な変化が起こる近年において、「日本一過酷なレース」と呼ばれるこのレースをいかに安全に遂行し、選手たちの力を最大限発揮できる環境を提供するかを追求し、ボランティア活動(登山道整備、山小屋への物資歩荷、清掃活動、山岳関係団体への寄付活動)などを通じて山岳振興への貢献を考えている。また、増え続けるレース参加希望者の選考において、縦走経験や登山技術、走力、エマージェンシー能力を問うことで安全な登山技術の普及に貢献しているともいえる。NHKでの放送をきっかけに、登山者やトレイルランナーだけではなく、数多くの国民に知られることになり、日本海から太平洋に至るコース上に応援者の声で繋がる程の影響を与える。また、選手たちを応援することで自らの元氣と勇気を得ることができるとなっている。継承すべき登山文化を守りながらも新しい文化や技術を取り込み、日本の登山文化の裾野を拡大し続けている。

## ご挨拶

副会長 兼 登山部長 **廣川健太郎**

日山協共済会会長・ガバナンス委員長

今回の役員改選で副会長兼登山部長、さらに日山協共済会会長、ガバナンス委員長を担当することとなりました。組織のスリム化、関係先との連携し、効率化とスピード感のある業務執行に努めてまいります。

関係各方面にはご心配をおかけしてきてましたが、JMCSAは2021～2023年度の経営失敗の結果、2023年度は加盟団体・関係者による基金への協力拠出で債務超過を免れ、2024年度決算では利益が確保できた状況です。

スポーツクライミング(SC)のオリンピック競技種目化により、競技大会が増え、選手強化事業も拡大しJMCSAの事業規模は5億円以上に拡大してきています。しかし強化や競技大会などの助成事業は基本的に利益計上は難しく、登山部も内向けの講習事業などがほとんどです。

ここでいったん私が会長を務めている(公社)東京都山岳連盟(都岳連)の事業活動状況を紹介させていただきます。

都岳連ではSCでは選手強化、国スポ予選会、その他、例えばボルダリングジャパンカップを主管団体として実施することもあります。現状では外部向けの講習事業を活発に展開している登山部門の方が事業規模が大きく、またJMCSAでは展開していないプロガイド養成資格認定事業なども行ない、講習やガイド養成事業は会員の新規加入にもつながっています。

ひとの面では都岳連はSC、登山部門とも、メンバーには恵まれています。これは千葉、埼玉、神奈川、栃木など近県在住者も多くいる＝東京に通勤、近県に住居をもったなど、都市圏特有の事情もあると思われます。

さて関東ブロックでみるとSC選手強化、国民スポーツ大会の県予選、ブロック予選などのSC事業をSC関係者で回しているところ(千葉、茨城など)、登山関係者が中心のところなど(山梨、埼玉など)、さまざまです。SC、登山ともにブロック内の情報共有・連携協力、JMCSAからのサポートが今後、ますます重要になると想像しています。

例として、JMCSAは加盟団体に法人格取得を奨励してきました。法人格取得団体は日本スポーツ振興センター(JSC)の広報、スポーツ大会、講習事業などの助成金申請・活用が可能になるのですが、その申請活用に関しJMCSAは加盟団体をサポートできてきていませんでした。手が付けられていなかった課題など洗い出し、良い方向に転換していきたいと考えます。

JMCSA登山部では新たな取組みの検討を始めました。都道府県単位で人気の5～10カ所以上の山のグレーディングを行なうとともに主要な遭難発生箇所と事故防止対

策をまとめて紹介する。福井などで取組んでいる登山道整備、岡山などの岩場整備・アクセス対策、大阪、兵庫が行なっている減遭難・道迷い対策など、各地の活動を情報共有・横展開を進めることを考えています。

登山事業では多くの登山者のためのより公益的な事業を拡大することで組織活動への新たな参加者を得ること、行政や関係先の協力を得ていくことが組織の維持継続に必要な不可欠と考えています。

最後に自己紹介をさせていただきます。私自身は都岳連の遭難対策委員会・救助隊に誘われ参加、その後JMCSA(旧日山協)遭難対策委員会にも所属活動していました。高校時代に山をはじめ、高2で社会人山岳会に入り、大学2年の1979年秋カモシカ同人ダウラギリ縦走登山隊でダウラギリII峰(7751m)に登頂、1981年アラスカ・デナリ登頂始め、北米のアルパインルート登攀。1982年3月剣岳北方稜線縦走(剣岳～僧ヶ岳)。アルパインクライミング、氷結した滝を登るアイスクライミングは特に集中して取り組んできた分野です。2009年3月49歳でマッターホルン北壁を完登しました。

著書に「アルパインクライミングルートガイド上下巻」山と溪谷社、「アイスクライミング」(白山書房)、NHK「大氷壁に登る」出演、DVDでも活動を紹介頂く機会を頂きました。

仲間といろいろな山に登り、クライミングをし、本やDVDなどをまとめる機会に恵まれたのは幸せなことでした。一方で山に逝った友人、会の仲間も多く、また近年山岳遭難事故が多い中に経験不足や学びが充分でない方が多いことには悲しみを覚えています。

いま取り組みたいことは、安全登山普及、事故事例紹介を通じた事故防止対策、登山環境・岩場整備アクセス対策、減遭難・道迷い対策など、組織としての世の中に向けた安全登山・クライミング普及への取組みです。

登山に関わる関係組織の皆さま、JMCSA加盟団体、山岳各団体の皆さま、宜しく、ご指導・ご協力のほどお願い申し上げます。

都岳連講習会



2024国民スポーツ大会関東地区予選会



# SKIMO

この度、SKIMO 委員会の委員長に任命されました、倉橋俊行と申します。

SKIMO 委員会がまだ国際部の中の山岳スキー小委員会であった頃の当時の発足メンバーの一人でした。当時は澤田実を中心に笹生博夫、松澤幸靖、平田伸也と共に活動していた頃が懐かしく思い出されます。

現在SKIMOという競技は冬季オリンピックの種目になり、JMSCAにおける位置づけも大変大きな比重を持つものになり、メディアからの注目も以前とは桁違いに大きなものです。

SKIMO 委員会には問題、課題が山積みではありますが、この委員会には様々な分野において極めて優秀な人材がそろっておりますので、問題なく解決していけると思っております。

これから来年冬季オリンピックの最終予選があります、強化委員はそれに向けて全力で取り組み成果を上げる、事業委員は日本選手権の段取りを滞りなく行っていく、審判部は国際審判員の資格保有者を育てる、DX、アスリートパスウェイの推進、広報委員は積極的に情報を収集拡散、普及委員はイベントを企画立案実行してSKIMOの裾野を広げていく、国際委員は最新の情報を

収集しISMFにおけるJAPANのロビー活動を進める、医学委員はアンチドーピングにおける情報収集と指導をしていく。

そして日々の活動において次の事を三つの重要な柱としてやっていきたいと思っております。

## • 健全な組織運営

無駄を削って、収支をバランスよく配分する 優先させるべきは何か

## • 正常な秩序の維持、コンプライアンス遵守

秩序が乱れないようにする

## • 誠実な言葉と行動

嘘偽りがなく、常識、思いやり、優しさ、正直、敬意をもった言動。

課題はさらにオリンピックや世界選手権のその先にSKIMOをどう発展させていって、世の中に浸透させていくか。

老若男女問わず多くの人が、SKIMOを楽しんでいる世の中。

部活でSKIMOを頑張っている学生達、

そんな日本のSKIMOの将来像も考えていきたいと思っております。

\*

皆様どうぞよろしくお願いたします。

(倉橋俊行)





# Enjoy Climbing!

## Enjoy Alpine Climbing! 連載⑥

— アルパインクライマーとしての成長 —

鈴木 雄大

### 『2024 Pakistan Thui II』 4 days on the wall

- 9/20 BC → ABC
- 9/21 ABC 5000m → C1 5810m
- 9/22 C1 → C2 6250m
- 9/23 C2 → C3 6523m (at the summit)
- 9/24 Summit → ABC
- 9/25 ABC → BC

昨年、ガンバルゾムVの山頂に立ち、美しい山々に沈む夕日の光景を僕は忘れられなかった。その内の一つのピークがThui IIであり、最も険しく、峻られる山であった。僕は早速、ガンバルゾムと同じチームで1年後、この山域に戻ってくる事に決めた。Thui II西壁へのアプローチとなるリシト氷河には、フランスチームが数年前、春の時期にスキーとクライミングで訪れたことしか情報がなかった。彼らはツイではなく、リシトピークに登ったようだ。我々はガンバルゾムVと全く同じ時期、9月一杯をこの山で過ごすこととした。リサーチを進めていくと、日本の古い書籍である『世界山岳地図集成』に「ヒンズー・ラージ山脈が東西から南北に折れ曲がる分点に位置する山脈第三の高峰トウイ2峰。その姿は台形のジャンダルムを従え、三角錐の尖峰はヒンズー・ラージでは最も立派な孤峰といわれる。」との魅力的な記載が。初登はイギリス隊の1967年の初トライから11年後、1978年8月4日。それから現在まで46年の間、この山に関する登攀記録は全く見当たらない。そして、Google アースでリサーチする限り、Thui IIの西壁はミックスクライミングに適した氷や岩の形状が山頂まで続き、パキスタン北西辺境で、誰も訪れた事がなく、冒険的で長大なクライミングが期待できそうだった。

チトラルからアフガニスタンとの国境を目指して、ジープで2日かけて北上して行くと、Shostという小さな村に到着した。ここには学校もあり、多くの子どもと、そして僕らを珍しがる警察が話しかけてきた。どうやら、これまで以上にワイルドなダートをさらに30分ほどジープで進めるようだ。僕は村が最後はどこまで続いているかすらよく分からなかったが、強引なパキスタン人ドライバーの見事な運転により、斜度35度の坂をジープで上がり、最終の村、トリカンド(カンド1)に到着した。村といってもここには実質1家族しか住んでないようで、僕らのガイドが住民と交渉して、ホームステイさせてもらえることとなった。その家の1人は大学生で、僕たちとお互いを珍し



BC before the storm



BC after big storm

がって色々な話をした。彼らはとても親切に僕らをサポートしてくれた。早速準備を進め、トリカンドから歩いて6～7時間ほどでベースキャンプに適した最後のgrassを見つけた。標高は4300m。ベースキャンプの候補地も全く予想がつかなかったの、草の平らなスペースと、本当に小さな水の流れがあり、ラッキーだった。私たちはすぐに高所順化でリシトピークの近くまで登りたかったが、4日間ほど雨が続き、ベースキャンプでゆっくりと休んでから出発した。その後の好天周期は10日間ほど続き、5日程かけて6000mの無名のポイントまでタッチ、リシトピークのすぐ北の5740mのコルで2泊することができた。この順応登山の行きと帰りに、ターゲットであるThui IIの様子を観察し、登攀ルートを大まかに決める事ができた。ルートは下部5分の1程度の雪壁と、大部分が垂直に近い氷や岩で構成され、特に核心部分は6200mを超える山頂直下となりそうで、1500m近くの冒険的なクライミングとなりそうだった。早くトライを始めたかった。下部雪壁を詰めた後で壁の弱点が繋がっているか、よくわからない部分もあったが、私達は偵察では一切壁には触れず、デポもしない、綺麗な一筆書きで本気トライをしようと決めた。そして、順応を終え、疲労もある中ベースキャンプへ戻ると、4日後くらいから、長いストームが来るとインリーチに知らせがあった。

レストも含めると、このストームをやり過ぎて次の好天周期が唯一のチャンスとなりそうだ。僕たちは”Basecamp mode”に入り、ボルダリングをしたり、映画を見て過ごす。結局そのストームは1週間以上続き、12日間、ベースキャンプでダラダラと過ごすことになった。ひどい時はキッチンテントの上に50センチの雪が積もり、最悪の事態も頭をよぎった。でも、晴れがくると、強烈な日射が雪を溶かし、少しずつ草が見えるようになってきた。上部雪田の状態がベースキャンプからは読めず、雪崩を心配していたが、僕は好天周期を掴んでABCへと戻った。

## 福島県山岳・SC連盟自然保護委員会のSDGsな活動



清掃登山 一切経山にて

日本どころか地球規模で取り巻いたコロナ禍が明けて、漸く日常が戻りつつある。現在でも全く消失したというわけではないが、状況は落ち着き、遠出をするのに気兼ねがなくなったことは誰にも共通することだろう。百名山の登山口の駐車場には、コロナ禍前のように他県ナンバーの車が並ぶ風景も見慣れたものとなった。我が福島県に擁する7つもの百名山においてもそれは例外ではなく、そういった光景に目を細めるのは私だけではないに違いない。

さて、当連盟では8月11日の山の日に因んだ清掃登山を各地で実施している。山を愛する人間なら、当然の如く、ゴミは捨てない、植生を荒らさない、植物は採らない、とっていいのは写真だけ、残していいのは思い出だけ、と必然的にSDGsな行動を取ることになるので、清掃登山で各自がゴミ袋を持ってもらえばいいようになるようなことはない。しかしながら、参加者相互の親睦を深められ、時には余り足を運ぶことのない山を歩くことにもなる良い機会になっている。何よりゴミ袋を手にするので、山を汚すまいとの意識の醸成に繋がるので、山の日を記念に始まった清掃登山は、今や清

掃以上のものを育む活動になっている。これまでは名峰と呼ばれる安達太良山や磐梯山など、団体でも登りやすく皆が楽しめる山を中心に活動を行ってきた。生憎今年度は、悪天候の影響で山の日における実施は叶わず24日に延期しての実施となったが、連盟の活動がある限り続けていけることを願っている。

話は変わるが、個人的に尾瀬が好きで何度も足を運んでいる。特に福島県側の大江湿原では7月のニッコウキスゲの群生が見事で、木道の周りに咲き乱れる様が県内外から人をひき付けて止まない。しかし、近年の地球温暖化の影響で鹿の生息域が広がり、人為的な対策を施さねばニッコウキスゲが鹿に食べられ数を減らしてしまう恐れがあると聞く。自然の中に人の手が入りすぎるとSDGsは危ぶまれるが、反対に人の手が適度に入らないと成し得ないSDGsもある。山を知る人間だからこそ成し得るSDGsがあるということだろう。当連盟、延いては各都道府県の連盟の活動がその一翼を担い得ることを願って止まない。

(福島県山岳・スポーツクライミング連盟  
自然保護委員長 佐川 和音)



清掃登山 安達太良山にて



清掃登山 箕輪山にて

北陸初開催

## 第9回「山の日」全国大会 2025FUKUI

～未来へつむぐふくいの山々～

皆さまは8月11日の国民の祝日「山の日」に山の日全国大会という行事が行われていることをご存じでしょうか？ 山の日とその前日の2日間がメインの全国大会となり、これまでと同様に一般参加可能な2日間の歓迎フェスティバルと11日午前中に記念式典が行われました。

今回は福井岳連山本会長が11日記念式典で「ふくいの山を守る活動」を講演紹介、フェスティバルでは福井岳連は10日に安全登山検定を実施、10～11日両日福井の山を守る活動としてブースを出展、登山道の整備・山小屋の清掃管理、安全登山普及のための教室、青少年育成キャンプなどの活動、さらには県内外での災害ボランティア活動の写真掲示、説明を行なうなど、積極的に大会に参加されておられました。

### 【山の日全国大会イベント概要】

#### 歓迎フェスティバル 8月10日(日)～11日(祝)

**大野会場** 両日。山の日ブース8(県、大野市、福井岳連、環境省、後催岐阜県高山市、山の日協議会他)、協賛企業ブース、ワークショップ、グルメコーナー

10日 安全登山検定(福井岳連)

11日 特別講演・対談 荒島愛山会・モンベル辰野勇会長

**勝山会場** 両日。山の日ブース10(勝山市、福井市、白山国立公園自然保護官事務所、山の日協議会他)、協賛企業ブース2、ワークショップ、グルメコーナー

**記念式典** 8月11日(祝)午前中、大野市結トピア会場  
歓迎アトラクション、主催者・関係者・来賓挨拶、ふくいの山を守る活動発表(福井岳連山本会長)

\*

大会の主催は全国大会実行委員会ですが、開催地県知事が会長、関係地域行政長が副会長、山の日協議会関係者が副会長はじめ役員を務め、協賛企業を募って開催されました。イベントは行政が企画主催する形ですが、今回は福井岳連が山岳団体の立ち位置で積極的に参加され、活動されていたのが印象的でした。

また、FUKUI 2025では、生活に恵みを与えてくれる福井の山々を楽しみながら体感するために、プレイベント〈5月〉、トレイルウォーク(4～8月)、オプションツアー(大会当日)、その他長期間の行事や関連イベントを「福井全体」で企画開催を進めておられました。

#### 長期イベント

- 福井県全域での2025山印を集めて健康増進キャンペーン：6月～11月 登山をしてデジタルスタンプを集めるキャンペーン



- 「山の日」全国大会開催記念特集展示「文学で楽しむ福井の山」：6月～9月 福井県ふるさと文学館 福井の山や登山を扱った文学作品の紹介。  
ほかにも10を越えるイベントが予定されていました。
- 「葉脈のしおりを作ろう」足羽山で葉脈標本しおり作り
- 「タカの渡り観察会 in 敦賀市天筒山」
- 企画展「恐竜の子孫！福井の鳥たち」(自然観察シリーズ)
- 「森の中でネイチャービンゴを楽しもう」
- 「土の中の小さなアイドルをさがそう」
- 「観察の森のコケをさがそう」
- 「夏の名残り」と秋を見つけよう」
- 天文教室「秋の星めぐり」
- 福井ふるさと学びの森・海湖活性化プロジェクト 池田町内 里山里海湖研究所
- 福井ふるさと学びの森・海湖活性化プロジェクト おおい町での森林体験
- ナタショウトレイルランニングレース 若狭丹波国境尾根を活用したレース

### 「山の日」全国大会、課題と感ること

山の日制定にいたる経緯を振り返ってみます。国民の祝日「山の日」をつくろうという活動はもともとは2010年に山岳5団体が提唱し、山の日制定協議会が設立されました。(山岳5団体) JMSCA、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤアドベンチャートラスト(HAT-J)

その後、2013年に超党派「山の日」制定議員連盟発足。11月に全国「山の日」制定協議会発足。2014年4月「山の日」法案、衆議院で可決。5月参議院で可決。8月11日が国民の祝日「山の日」となりました。

その後、2015年8月「山の日」制定記念シンポジウム開催。実際の祝日は2016年の第1回長野県上高地に始まり、那須、鳥取、Yamanashi、おおいた、やまがた、おきなわ、東京と続き、今回のふくいで第9回を迎えました。

私は東京都山岳連盟で活動しているため、第7回おきなわから、東京、ふくいと3回連続で参加しました。

課題と感じるのは行政が企画主催実施主体である中で、ここまでの各大会、山岳団体と行政間の関係性により、地域差が非常に出てしまっているように感じます。

山の日の機会に山岳団体としてどのような活動をし、なにを伝えていくか、山岳団体、全国山の日協議会との間で協議検討し、山岳団体側はしっかり要望をまとめ



伝えるとともに、全国山の日協議会には行政との橋渡しをしっかりと務めてもらいたと思います。

(JMSCA 副会長登山部長 廣川健太郎)



### 事故遠因；国が違えば異なるハイキング

国際山岳連盟UIAAの登山部会 Mountaineering Commissionで、最近の話題はhikingなど用語の定義問題がある。地域により様々な解釈と用語が有り、英語圏のhikingに関連する用語だけでも20を超える。もちろん日本語のハイキングでさえ、楽しみながらの山行のイメージで、縦走などの登山までは含まないなど解釈幅が広い。



欧米では、登山要素が強くなり、ロープを使わない急斜面登りのスクランピングに近いものも含まれる。その応用版として、ワイヤーを張り巡らした岩壁を特別なハーネスを使って登るビア・フェアラータVia Ferrata(鉄の道の意味)がある。これをアルプス周辺国はhikingに分類している。

日本人にはなじみの薄いVia Ferrataがハイキングコースに含まれるのなら、ヨーロッパのハイキングツアーに参加するときは注意事項である。

トムラウシ事故のツアー登山問題を研究した時、登山イメージが参加の決定要素となり、ずさんなツアー会社の企画が事故への遠因となることを経験した。もし安全軽視のツアー会社あり、パンフレット「アルプスのお花

畑ハイキング」に誘われて参加すると肝を冷やすことになる。

当然、委員会ではhikingにVia Ferrataを含めることには強く反対しているが、意見が分かれている。

### ●主な流れ

- 1章 山岳団体 (JMSCA、労山) の組織情報と事故情報
- 2章 レジャー白書から見た登山活動
- 3章 2024年警察庁の事故データ分析結果
- 4章 新規登録した山岳遭難事故データベース分析結果
- 5章 5192人の事故者からのメッセージ

## 1章 山岳団体 (JMSCA、労山) の組織情報と事故情報

### 1. JMSCA・労山にみる会員数と事故発生状況

JMSCAと労山の会員数は、2024年度で両団体合わせて54,799人(表1)となり、対前年度差2710人の減少となっている。その内訳は労山が415人の減、JMSCAが2295人の減であった。なお、JMSCAはコロナ時の大幅減少期に比べると減少量が緩和されたが、約2000人前後で減少し続けている。

一方、登山事故は2団体の事故者数が1011人となった。一般事故者数を含むため比較が難しい問題があるが、2003年でほぼ同数の59,428の会員数の時、事故者数約500人であったことから、当時の倍の発生数となっている。どうしても会員数の減少に関心が向いてしまうが、2大組織の旗頭として、安全登山に取り組んでもらいたい。

表1 JMSCA・労山の会員数と事故発生状況

2003-2024	年度	会員数	事故者数	死亡者数	アンケート回答数	回収率(%)	割合(発生数/会員数)	割合(死亡数/発生数)
2003	2003	54428	528	23	198	37.7	112	25.84
2004	2004	52228	420	13	188	45.0	355	39.21
2005	2005	54529	448	28	208	47.2	355	24.44
2006	2006	29417	478	31	230	48.0	147	22.72
2007	2007	23448	518	24	272	48.0	142	26.90
2008	2008	22888	522	22	218	48.0	139	26.48
2009	2009	24299	526	27	178	38.0	149	21.66
2010	2010	21454	574	24	188	34.1	148	35.61
2011	2011	18251	629	21	190	34.1	142	42.74
2012	2012	24695	613	18	216	34.9	121	43.14
2013	2013	44529	525	31	220	31.5	168	24.44
2014	2014	110211	630	28	211	28.0	100	28.90
2015	2015	130211	646	37	247	28.0	108	35.17
2016	2016	120888	1099	30	228	20.0	127	48.22
2017	2017	144152	1077	37	282	25.5	127	46.04
2018	2018	156803	1072	42	315	28.2	145	37.28
2019	2019	162818	1028	30	291	28.2	137	34.43
2020	2020	82881	881	18	238	28.0	78	38.99
2021	2021	66585	837	14	219	27.4	72	42.78
2022	2022	54889	747	12	232	31.1	78	48.16
2023	2023	57509	885	18	289	28.0	31	31.95
2024	2024	54799	1011	12	241	23.0	58	45.57

## 2. JMSCA会員年齢分布（2016-2024）を参考に した一般登山者年齢分布の推定

JMSCA会員の年齢分布（共済会提供）は、類似した曲線を描く労山の年齢分布と共に、我が国の登山者年齢分布の傾向を知るモデル年齢分布曲線（図1）と解釈している。

図に見られるように、年度別会員年齢曲線は経年変化に伴い曲線形状とピークは、あたかも数値解析によって描かれた曲線のように明瞭な右下下がりのシフトが見られる。65-69歳で、最大ピーク値を出した2016年曲線形状を基に考えると、曲線群は65-69ラインより左側で右方向にシフトし、右側では全体として漸近しながらも、僅かずつ右シフトしている。これは特定の世代（登山団塊S15-30生まれ）が減少しながら、加齢により80歳の漸近曲線にシフトする現象と捉えている。なお、80歳世代では漸増するが、増加率は少ない。

この曲線群の右下下がりには、登山団塊の主力世代が後期高齢者となり、高齢者層に大きく依存してきた山岳組織において、やがて高齢者群が激減する年が迫っていることを暗示している。併せて、この高齢者層の消滅は、一般登山においても同様の傾向を示すと、予測している。

なお、2024年度のJMSCA会員の世代分布曲線と比較のため、同年、警察庁がまとめた事故者の世代分布曲線を図中一2に添付した。山岳事故者と会員の世代分布において、各年齢での分布形状が良い相関を示していることが分かる。このことは、高齢者登山層の減少が、いずれ、我が国の遭難者総数の減少につながることを示唆している。

山岳団体の登山者年齢層と比較する上で、図3に示す



図1 JMSCA会員の世代分布(2016～2024)と山岳遭難事故世代分布との比較

ヤママップ利用者の登山者年齢調査が興味深い。夏期登山者（n=184650）は50代29.4%、40代26.6%、で全体の半数、60代14.6%、30代14.2%と報告されている。警察庁の発表する70歳世

代がピークとなる事故者の世代別分布（図2）とヤママップ利用者の登山者年齢分布が異なるのは、調査期間、ヤママップ利用者世代の違いによるものと推定している。

ヤママップ利用者は高齢者登山時代が終わり、次の登山時代を背負う世代と位置づけている。高齢・弱体化する山岳団体の発展を考える場合、如何に40～50代を組織に取り込めるかが鍵となっている。

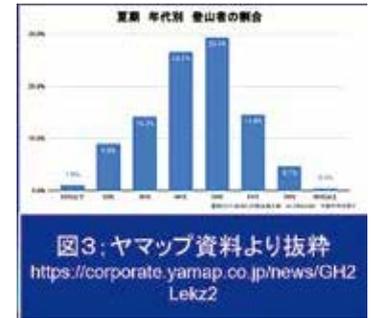


図2: ヤママップ資料より抜粋  
<https://corporate.yamap.co.jp/news/GH2>  
Lekz2

次回へ続く

# JMSCA

令和7年度 第6回  
ハイブリッド開催定時理事会報告

日時：令和7年8月14日（木）  
13時～16時50分

場所：JSOSビル3F 会議室5及びZoom  
出席者

町田 幸男、石井 昭彦、原 勇人、(欠) 安井 博志、藤江 理枝、廣川 健太郎、吉田 春彦、(欠) 下村 真一、(欠) 小高 令子、(欠) 西原 斗司男、畑中 渉、中橋 沙羅、蛭田 伸一、栗田季 慎子、望月 啓治、星 一男、野村 善弥、中島 隆之、赤尾 浩一、石田 英行(14:00より)、古賀 英年、平田 伸也、小田部 拓、武田 豊明、前田 善彦、奥井 健吾、古屋 寿隆【監事】、佐久間 務【監事】  
理事 出席者：22名、欠席者：4名  
監事 出席者：2名

### 1. 開会 2. 会長挨拶

豪雨により災害に見舞われたところには

お見舞い申し上げます。8月に入り佐賀でのJOC強化指定施設認定の授与式と広島でのインターハイ開会式に参加した。開会式の挨拶でたくさん的高校生に向けぜひ登山を続けてもらいたいと話をした。本日も多くの議題があり円滑かつ慎重な審議をお願いします。

### 3. 会議成立状況報告

理事数 26名中21名出席(途中から+1名)  
監事数 2名中2名出席  
(定款第33条、定足数=14名(過半数以上))

### 4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

### 5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

### 6. 議題

#### 議案第1号 前回理事会議事録の承認について

すでに、内容の確認は完了しており承認された。

#### 議案第2号 組織管理運営規程改定に係る諮問について

望月専務理事が資料を基に説明し、諮問することについて異議なく承認された。

棄権0名、反対0名、賛成21名

今後については9月5日期限の答申を受け、監事に意見を求めた後、9月定時理事会

で審議する。佐久間監事から、今回の組織図を俯瞰して、改めて協会の規模からすると、委員会の数が多過ぎると感じているという発言があった。

#### 議案第3号 海外競技団体からのJMSCA招待状要請に対応するための規定づくりに係るSC国際委員会への諮問について

望月専務理事が資料を基に説明し、諮問することについて、異議なく承認された。

棄権0名、反対0名、賛成21名

#### 議案第4号 auが開発したチーム管理システム「ANY TEAM」の利用によるユース育成事業について

小田部常務理事が資料を基に内容の説明をし、その後、実施する上での課題や、岳連、国スポ、高体連への伝達方法などの意見が出された。それらを踏まえ実施の如何について採決を行い次のとおり、実施することで決した。

棄権0名、反対0名、賛成21名

#### 議案第5号 オフィシャルサプライヤー契約について

小田部常務理事が2026～2029年度の契約書案を基に、本年度までの契約との違いを説明した。また、当議案は、今回は審議のみで、来月9月に決議する予定であり、内

容をよく確認してもらいたいと補足した。質疑はなかった。

### 議案第6号 山岳共済会と他社との提携について

望月専務理事が、交渉の途中報告として協定案を説明した。

当議案は審議のみ。質疑はなかった。

### 議案第7号 IFSC ネイションズ・グランドファイナル & IFSC パラクライミングマスター (2025年10月23～26日) への協力について

畑中副会長が資料を基に、当大会の内容と、JMCSAは主催や主管ではなく協力であるとの役割を補足説明し、その後採決を取り、以下のように異議なく承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名

### 議案第8号 公認申請したSC競技会の承認について

①クライミングドリームカップ in 西条(スピードのみ)

②第8回全国ボルダー小学生競技大会

③第3回神奈川スピードクライミング競技会  
藤江理事が、資料を基に説明し、以下のように異議なく承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名

### 議案第9号 クライミングドリームカップ in 西条の後援について

赤尾事務局長、武田理事が、資料を基に説明した。

スピードだけでなく、全競技が後援対象とのことだが、開催要項の公認対象の表記に間違いの恐れがあるので、内容を再度精査したうえで、普及委員会とも協議し次回常務理事会で諮ることになった。

### 議案第10号 JMCSA 新役員研修会の実施案について

令和7年度から就任した役員全体が対象で、9月23日(火)PM1:00 からPM5:00(3時間説明、1時間Q&A+休み)に実施、現地とZoomで実施。赤尾事務局長が人数確認と部屋の確保をすることになった。

### 議案第11号 補正予算の編成について

望月専務理事が、現在補正予算を提示している委員会(SC普及、技術、SKIMO補助金が変更したところなど)の補正数値一覧を表示した。これ以外の委員会で、補正がある場合には、8月22日(金)までに連絡することが確認された。

### 議案第12号 共催事業「Jrクライミング体験会2025 in ロクボク」の実施について

藤江理事が、資料を基に説明し、望月専務理事が補足説明し、その後異議なく承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名

## 7. 報告

報告第1号 7月末時点の主な収支及び

### キャッシュフローの状況

赤尾事務局長が、配布資料、資金状況のまとめ(キャッシュフロー)と、予算管理表を基に、現状の説明をした。

### 報告第2号 令和7年度 SCブロック別研修会の実施について

原理事が、資料を基に説明した。

### 報告第3号 第81回国スポ(宮崎)大会競技別リハーサル大会開催に係る承諾書提出について

原理事が、資料を基に説明した。

### 報告第4号 第82回国スポ(長野)大会競技会会期(最終案)の同意書提出について

原理事が、資料を基に説明した。

### 報告第5号 JMCSA公認夏山リーダー資格認定の承認について

廣川副会長が資料を基に、常務理事会で承認済みであることを報告した。

### 報告第6号 JSPO公認SCコーチ1(富山会場)認定の承認について

藤江理事が資料を基に、常務理事会で承認済みであることを報告した。

### 報告第7号 IFSCクライミング世界選手権ソウル2025 派遣選手選考リストの承認について

畑中副会長が資料を基に、常務理事会で承認済みであることを報告した。

### 報告第8号 2025年前期海外登山奨励金選考結果の承認について

廣川副会長が資料を基に説明し、4隊に対し総額100万円の奨励金を配分することが、常務理事会で承認されたことを報告した。

### 報告第9号 ISMF総会(10/18メキシコ・カンクン)への出席について

小田部常務理事が、資料を基に、当該総会の内容とJOC IF役員獲得プログラムを利用して参加することを報告した。

### 報告第10号 総務企画委員会の構成について

望月専務理事が配布資料を基に説明した。

### 報告第11号 第20回アジア競技大会(2026名古屋)テクニカルオペレーションマネージャー候補者の推薦について

畑中副会長が配布資料を基に候補者を説明した。

### 報告第12号 IFSCコーチコミッションへのJMCSA候補者の推薦について

望月専務理事が、SC部から提示された候補者を推薦した旨報告した。

### 報告第13号 事務局対応時間の提案について

赤尾事務局長が、電話窓口時間10:00-12:00、13:00-17:00とし、12:00-13:00は留守電対応とすることを報告した。当内容を、対外的にうまく伝達することが必要との意

見がでた。

### 報告第14号 年度末資金繰りの方策について

赤尾事務局長が現在の取り組み状況を口頭で説明した。

### 報告第15号 2026年新春懇談会の実施方法について

赤尾事務局長が、他の候補会場も料金等調査しているが、大きくは変わらないこと、午前中の運営方法(内容、使用業者等)を見直すことで、費用削減していく方向であることを報告した。

### 報告第16号 役員派遣ほか渉外等について(8月～10月)

- 8月15～16日 クライミング体験キャンプin 鉾田及び 関連表敬訪問(会長)
- 8月20日 IFSCクライミンググランドファイナルズ開催発表記者会見(会長)
- 9月6日 国スポ競技順抽選会(望月専務、原理事(国スポ委員長) ほか)
- 10月3～5日 滋賀国スポ(会長、畑中副会長)
- 10月25～27日 全日本登山大会兵庫大会(会長、廣川副会長)

## 8. 各委員会議事録について

BOXの運用を開始したので、今後、ファイルの収納や、使い方について指示をする。

## 9. 今後の予定

- 令和7年度 9月常務理事会 9月9日(火)
- 令和7年度 9月第7回理事会 9月11日(木)
- 令和7年度 10月常務理事会 10月7日(火)
- 令和7年度 10月第8回理事会 10月9日(木)
- 中間監査 10月末日予定

## 10. その他

古賀理事が、全日本登山大会申込締め切りが、明日の8月15日(金)だが、参加申し込みが予定より少ないので、対応が必要な旨の説明があった。その結果、以下を実行することになった。

- ―理事、監事は、自分が属するブロック、岳連ごとに、参加の推進と、参加人数を収集
- ―締め切り日の延長の検討
- ―事務局は理事、監事の参加可能者数をまとめる。

【報告】篤志家からの借入金4000万円の返済を予定どおり実施し利息が寄付された。

【報告】現時点で基金は2名から120万円申請あり、さらに追加の動きがある。なお、基金募集にあたりJMCSA財政状況の報告等をすべきとの意見有。

以上

令和7年8月14日

記録 赤尾浩一

## 寄贈図書

健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.568	会報	株山と溪谷社	「アルピニズムと死」山野井泰史(ヤマケイ文庫)	寄贈本
株日本運動具新聞社	「スポーツ産業新報」第2477号、第2478号、第2479号	新聞	株山と溪谷社	「冒険者たちの心理」菊地敏之(ヤマケイ新書)	寄贈本
NPO法人日本フリークライミング協会	freefan #089	会報	株ネイチュアエンタープライズ	「岳人」9月号 No.939 3冊	寄贈本
東京新聞出版部	「高みをめざすアップヒルアスリートのトレーニングマニュアル」	寄贈本	株山と溪谷社	「山と溪谷」9月号	寄贈本
日本勤労者山岳連盟	登山時報 2025夏号 No.589	会報	明治大学山岳部炉辺会	炉辺通信 No.208	会報
兵庫山岳連盟	兵庫山岳 第698号	会報	おいらく山岳会	「山行手帖」No.789.25.9	会報

「かすみちゃんのハイキング日記」



## 表紙のこぼれ



### 和歌山県田辺市の岩稜「ひき岩群」

昨年度、和歌山県山岳連盟主催の「第7回きのくにトレッキング」の舞台となった和歌山県田辺市の「ひき岩群」は、太平洋を望む自然豊かな丘陵に広がる岩稜地帯です。簡単な岩場を含む変化に富んだ登山道と、紀州の海と山を一望できる壮大な眺望が魅力の低山で、初心者からベテランまで楽しめます。四季折々の草花や野鳥の観察も魅力のひとつ。とりわけ山頂からの熊野の山々と太平洋の眺めは圧巻で、多くの登山者に親しまれています。

和歌山県山岳連盟 理事長 白子欽也

## 編集後記

日頃より「登山月報」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

このたび「登山月報」は、一部を除き郵送でのお届けを終了し、今後はJMSCAホームページよりダウンロードしてご覧いただく形となりました。内容はこれまでと変わらず、過去の号も引き続きご覧いただけますので、ぜひご活用ください。

なお、現在郵送にて受け取られている方には、有償での郵送継続制度をご利用いただけるよう準備しております。対象の方へは、改めて詳細を郵送にてご案内いたしますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

<https://www.jma-sangaku.or.jp/about/report/>

(松本光順)

### 登山月報 第 678 号

定価 110円 (送料別)  
 予約年間 3,000円 (送料共)  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 令和7年9月15日  
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
 Japan Sport Olympic Square 905  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会  
 電話 03-5843-1631  
 F A X 03-5843-1635

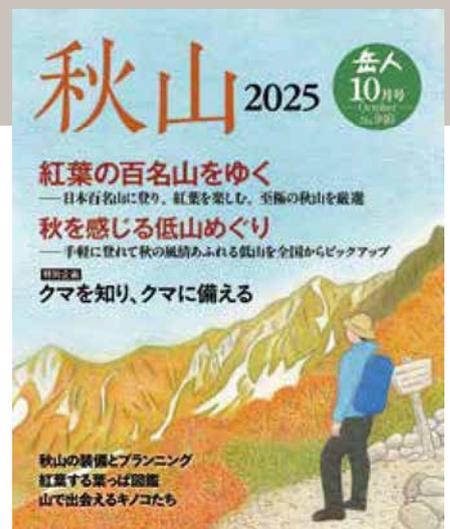
「山岳雑誌」山と人、時代をつなぐ **岳人** 10月号

# 特別編集 秋山 2025

紅葉の百名山をゆく & 秋を感じる低山めぐり

モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて販売中!

価格 1,100円 (税込)



## ▶年間購読が断然おトクです!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

## 年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く  
中村みつを氏のイラストを使用!

限定デザイン

岳人カード

全国2,000ヵ所以上で  
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で  
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の  
モンベルストア  
でも受付中!

お問い合わせ  
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及支援</li> <li>自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング</li> </ul>	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの支援</li> <li>先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応</li> </ul>	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等)</li> <li>災害に強いまちづくりの支援</li> </ul>

立ちどまらない保険。

**MS&AD 三井住友海上**

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会\*をめざします。

\*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



# 日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、  
山岳保険は義務。**

**ご自身のために、ご家族のために。**

## 日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

## 2024年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課  
(2025年6月19日)

発生件数	<b>2,946</b> 件 (前年対比 180件減)
遭難者数	<b>3,357</b> 人 (前年対比 221人減)
死者・行方不明者	<b>300</b> 人 (前年対比 35人減)

**JMSCA** 2025年版  
日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます ( [www.sangakukyousai.jp](http://www.sangakukyousai.jp) )

